

8P x 2段 x 28行 x 29字

更紙、白紙、10行

1 天竺巻ミシロ一本

小見
4

10 伊太利日記 (送稿) 小室典三 隆

一九二四年一月十八日 (金) ヒサを見よう

思つたが寝坊をして見う水なかつた。起き
見ると空はすつかり蒼々して、日光が豊かに
窓からさしこんで来る。小春日和のようふ暖
かすである。汽車はもう伊太利の中を走つて
いるのである。フランスを見ても伊太利を見
てもあるいは獨逸を見ても、日本ほどちよこちよ
こちと田舎に家の建つてゐるところを見たこと
がない。日本の人口が非常に多くていまにあ
ふれしてしまうだろうというようふことをつく